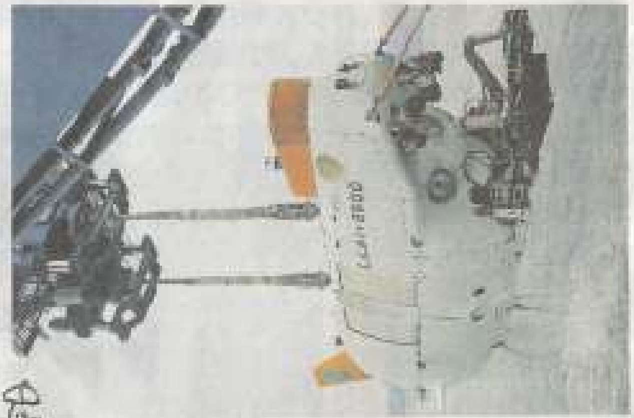
ウナギの生態を探るため、グアム島周辺の太平洋で深海調査を行うことが決まった有人潜水調査船「しんかい6500」＝4月、静岡県



24.5.29 朝

潜水艇でウナギ探し

東大など7月産卵調査　グアム周辺

謎の多いウナギの生態を探るため、海洋研究開発機構と東京大学などは今年7月、産卵場所とされるグアム島周辺の太平洋で有人潜水調査船「しんかい6500」を使った深海調査を行うことを決めた。関係者が28日までに、明らかにした。

これまで観察されたことがない産卵直前や産卵時の行動を直接とらえ、絶滅の懸念もあるウナギの資源保護に向けた研究につなげるのが狙い。

潜水調査は過去にも実施したが観察はできなかった。今回も成功するかどうか未知数だが、ウナギの生態に詳しい東大大気海洋研究所の塚本勝巳教授は「これまでの調査でウナギの産卵地点はかなり絞られてきており、多数のウナギが深海に集まって産卵する行動が見られるかもしれない」と期待を寄せている。

ウナギは5～8月の新月の直前に、グアム島近く、西マリアナ海嶺（かいれい）南端付近の太平洋で産卵するとされる。計画では、7月の新月の直前にあたる10～12日の夜間、しんかい6500を使って同海嶺周辺で、ウナギが産卵するとみられる深さ200㍍の地点を中心に、産卵する親ウナギを探索する。夜間には、ケーブルの先端にライトやカメラを装着した「ディープ・トウ」と呼ばれる無人のえい航装置で同様の調査を行う。